

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690600014		
法人名	有限会社 コミュニケーション		
事業所名	グループホーム ひばり		
所在地	徳島県三好市井川町西井川375		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔な環境の中で生活していただけるよう掃除、整理整頓、清潔な衣類に気をつけている。日中過ごすことが多いホールは明るく、田畑や山が見え、移り変わりゆく景色を楽しむことが出来、さらに室内でも四季を感じていただけるような環境づくりをしている。誕生日や豆まきなど季節の行事を行い、季節毎の食材で四季折々の料理を提供し、家庭的に過ごすことができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者一人ひとりに寄りそい、住み慣れた環境のなかで、その人らしく暮らし続けることを大切にしている。事業所には、児童や地域ボランティアが来訪し、交流を深めている。運営推進会議には、利用者や家族、地域住民、市担当者、警察等の出席があり、介護や防災等について、活発な意見交換の場となっている。日頃から、職員間で支援の内容についてアドバイスしあったり、相談したりする協力関係ができています。支援の振り返りの機会として、職員も自己評価に関わっている。代表者もケアの現場に積極的に参加し、職員とともに利用者を支えている。管理者は、地域との関わりや防災について、積極的に取り組む意欲がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を作成している。毎朝の申し送り時に職員全員で理念を唱和し、理念に基づいた支援、実践ができるようにしている。	事業所は、地域密着型サービスの意義をふまえ、全職員で考えた理念を掲げている。職員は理念をケアの原点とし、ミーティング時に確認している。理念を具体的に示す目標を作成し、理念の共有化と実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くを散歩する際、地域の方々とお話をしたり、作られている野菜や果物をいただいたりしている。地域の小学生の来訪があり、楽しみの一つとなっている。	事業所には、ハンドベルや阿波踊り等のボランティアグループの来訪がある。阿波踊りのグループが来訪した際には、近隣住民にも声をかけている。3か月に1回、小学生の来訪があり、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に認知症の方の行動や、周辺症状などの報告をしている。参加していただいている包括支援の方からも支援の方法などの話をさせていただく場をもち、理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催し、利用者、家族、地域住民、駐在所のお巡りさん、包括職員に参加いただき、利用者の状況や行事の報告を行い、他施設で行っている行事や勉強会を教えて頂き、毎日のサービスに活かせるよう創意工夫している。	年6回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、地域住民、市担当者、地域の駐在所職員の出席を得ている。事業所の報告を行い、出席者から意見を得るなど、双方向的な会議となっている。出された意見は、職員間で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当窓口月に月次報告している。市町村での取り組み、勉強会など教えて頂き、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	職員は、毎月、市担当窓口に出向き、事業所の報告を行い、実情を伝えている。その際に、福祉制度についての助言も受けている。市主催の研修会にも参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施している。身体拘束の弊害、正しいケア方法を理解し、身体拘束をしないケアを目標に全職員が取り組んでいる。	事業所では、身体拘束に関する研修を行い、身体拘束の対象となる具体的な行為やその弊害について、職員の理解を深めている。日ごろから、利用者との関わりのなかでの気づき等について話し合いを行っている。家族にも事業所の考え方について伝え、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、言葉遣いや態度などにも気をつけ、虐待のないケアに取り組んでいる。また、虐待を見過ごすことがないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を行い、制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を一つ一つ説明し、不安や疑問が解決できるよう十分に時間を設け、理解、納得してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に意見や要望を伺うようにしている。玄関にも意見箱を設置している。出された意見、要望は運営に反映するよう努めている。	事業所では、家族の来訪時に話しやすい雰囲気づくりに努めている。月1回の事業所だよりには、利用者一人ひとりの近況を記載し、意見や要望を出しやすいように工夫している。出された意見や要望は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度相談するようになっている。	代表者や管理者は、日ごろから職員が話しやすい雰囲気づくりを行っている。月1回、職員会議を開催し、職員の意見をきく機会を設けている。職員には、レクリエーションや備品管理、ひばり農園等、役割を決めることで、運営に関わってもらい、やりがいを感じることができるよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断や予防接種を実施し、健康面に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は各職員の資格習得の支援と力強い励ましをしてきている。研修会参加にも力を入れてきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との意見交換、相互訪問をして、意見交換をすることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく生活できるように、家での生活、困っていること、不安に思うことなどをゆくりと傾聴し、要望の表現について話をすることにより、安心感をもって頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談に来られた時は、十分な時間を設け、不安なこと、困っていることを聞き、事業所が出来ることも説明し、理解してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって最も適したサービスが受けられるよう必要に応じて他のサービス利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯を畳んだり、散歩にでかけたり、職員と利用者ができることを一緒に行うことで共に支えながら暮らしていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話などで日頃の状況報告し、家族の希望を聞き、利用者の望む暮らしを家族とともに考え、支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族と一緒に行きつけの美容院に出掛けたり、知人や友人の面会や電話で話ができるよう時間を作っている。関係が途切れないう家族様にも協力してもらっている。	事業所は、利用者や家族、親戚等との関係を大切にしている。家族の協力を得て、行きつけの美容院に行ったり、自宅を見に行ったりすることもある。また、書道など昔の趣味を継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がみんな楽しく参加できるようにレクリエーションや行事を行い、職員、利用者同士が関わられるよう取り組んでいる。利用者同士の関わりが困難な場合には、職員が間に入り孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談があった時は応じるなどの援助を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりと、ゆっくり関わる時間を設け、利用者の言葉や表情などから思いや意向を把握できるよう努めている。	職員は、利用者との日ごろの関わりのなかで、何気ない一言や表情から、利用者の思いや意向を把握できるよう努めている。把握した思いや意向は、職員で共有し、その人らしく暮らすことができるよう支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者や家族から情報を収集するよう努めている。入所後は、その都度本人や家族からこれまでの暮らしの情報を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや食事摂取量、排泄、睡眠状態を記録し、一人ひとりの心身状態や生活リズムが把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から利用者の思いを感じ取り、家族から意向を聞き取り、把握できるよう努めている。3ヶ月毎に見直しを行い、介護計画を作成している。	事業所では、利用者の思いや家族の意見を聞き、利用者本位の介護計画を作成している。全職員で、モニタリングや見直しを行ったり、医師の意見も聞いたりして、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や気づき、工夫などを業務日誌、介護記録、申し送りノートに記入し、ミーティングで共有し、ケアの向上に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じた食事形態を考え提供するなど、利用者や家族が希望することを臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域駐在さんや消防団など何かあれば見廻りをしてきている。近隣小学校との交流により楽しい時間を過ごせるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力で通院したり、利用者一人ひとりの希望に応じた受診体制を取り、利用者が安心して暮らすことが出来るよう支援している。	事業所は、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。事業所には、利用者それぞれのかかりつけ医や協力医療機関の往診がある。専門医の受診は、家族の協力を得て支援している。その際は、現況記録を用意し、情報を共有している。夜間緊急対応も整備し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、体調管理し、異変を感じた時は素早く看護師に連絡し、指示を仰ぎ、状態により病院、家族に連絡するなどの対応をし、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には経緯を細かく報告し、情報交換を密に行い、早期退院できるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の段階で事業所の出来る最大のケアの範囲について説明している。事業所による支援が困難になった場合には、家族や医療機関などの関係者と連携を図り対応している。	事業所では、入居時に重度化や終末期に向けた方針について、利用者や家族に説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族の意向を確認している。心身の状況の変化に応じて、医療機関と連携し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時に備えている。消防署指導の元、救急訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の元、避難訓練を行っている。また、地元消防団や駐在さんの協力により、台風や大雨時の巡回や災害時の避難場所を確保しており、備蓄品も確保している。	年2回、夜間や火災を想定した、避難訓練を行っている。立地条件を踏まえて消防団と相談し、大雨の際には見回りを依頼するなど、協力関係を築いている。備蓄品や緊急時の連絡網を整備し、災害時に備えているが、管理者は、避難時の人員不足を解消したいと考えている。	指定避難場所が急な坂の上にあるため、避難時の人員不足解消も含め、近隣住民や消防団等と、さらなる相談や協力体制の構築に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶、言葉遣い、接し方などの勉強会を行い、利用者の自尊心を傷つけることの無いよう、全職員が意識して言葉かけや行動に注意している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、それぞれのペースに合わせた支援に努めている。日ごろから職員間で、言葉かけやプライバシーについて話しあったり、勉強会を開催したりして、誇りやプライバシーを損ねない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと利用者に関わりを持ち、利用者の思いを感じ取れるよう努めている。利用者が自己決定出来るよう、さり気ない言葉掛けや行動に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールはなく、利用者の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔な衣類を着用し、汚れたら着替えることができるよう支援している。また、希望があれば本人の望む美容院でカットや毛染めが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひばり農園で収穫した新鮮な野菜で、食事を作り、季節感を感じてもらっている。利用者は一人ひとりの力量に応じて、下膳やテーブルふき、野菜の選別などを職員と一緒にやっている。	事業所では、ひばり農園で栽培した野菜を取り入れて、調理している。気候の良い日は、外でお茶を楽しんだり、おやつづくりや行事食、外食等も取り入れたりして、食事が楽しみなものになるよう工夫している。巻き寿司は卵焼きで巻くなど、食べやすさにも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人にあった量に調整している。水分量の少ない方には好みのものを飲んでいただいたり、こまめに水分補給をしてもらっている。定期的に体重測定を実施し、体調管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや、誘導にて歯磨きを実施。利用者一人ひとりに合わせて全介助、一部介助、見守りで支援している。また必要時には歯科往診も依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がないよう、一人ひとりの排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。日中は出来る限り、紙パンツや布パンツで過ごして頂けるよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけでトイレでの排泄を支援している。利用者の心身状況により、排泄が体の負担にならないように配慮している。食事や水分摂取、運動の工夫もしながら排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分補給、運動などに配慮し、便秘予防に努めている。排泄表の記録により、排便状態を全職員が把握できている。お茶、水が飲めない方には水分補給ゼリーやスポーツドリンクなど口に合うものを飲んでいただいたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者が安心して入浴できるよう、その日の体調や気分に応じて、日を変えるなど対応している。湯船に浸かれない時は足浴やシャワー浴で身体に負担の掛からないような支援をしている。	事業所では、少なくとも週に2回の入浴ができるよう支援している。利用者一人ひとりの希望やその時々体調に応じて、日や時間を変えることもある。お気に入りのシャンプー等を使う利用者もいて、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者はその日の体調により居室で休まれたりソファで寛いだりしている。夜間は部屋の温度調整や布団の調整、パジャマの調整をすることで気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに纏め、すぐに確認できるようにしている。症状が悪化するような時はすぐに主治医に連絡が取れる体制を整え、必ず申し送りして、全職員が把握できるようにしている。服薬時には必ず職員同士で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯たみ、新聞ゴミ入れ作りなど日常生活に取り入れている楽しみごととして、パズル、読書、カラオケなど利用者が好きなことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は庭のベンチに座り日光浴をしたり、近くを散歩したりしている。希望があれば家族と外出したり、外泊したりすることができるよう支援している。	事業所では、日ごろから近隣を散歩したり、庭に出て、ベンチで風景を眺めたりしている。また、家族の協力を得て、墓参りに出かけた、自宅を見に行ったり、行きたいところへ出かけることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を出来る方がほとんどいないのが現状です。必要な金銭は施設で預かり、小遣い帳に記入している。使った小遣いは毎月家族に書面で報告し、また面会時に小遣い帳の確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には利用者と共に作ったちぎり絵や、季節に応じた空間づくりをしており、清潔、整理整頓、気持ち良く、心地よい空間を心掛けている	共用空間は、清潔を保ち、季節に応じた飾り付けをしている。居間からは、里山や田畑が一望でき、利用者が自然と集まり、ボール投げやパズル、洗濯たたみなど、思いおもいのことを楽しみながら過ごす場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋で過ごす方、ソファで過ごす方、職員と話される方、テレビを見ている方、思い思いに過ごすことができるような支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人や家族に使い慣れたものを持ち込んでもらえるよう説明している。好みのもや写真など馴染みのあるものを居室に飾り、居心地良く暮らせるよう工夫している。	居室には、利用者の使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。写真や作品を飾り、好きな物や馴染みの物に囲まれ、落ち着いて過ごすことができるよう工夫している。掃除は、職員が利用者とともに、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所がわかるよう大きな文字で張り紙をしている。歩行器や手すりを利用する方の為に廊下や部屋に障害物を置かず、安全に生活できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を作成している。毎朝の申し送り時に職員全員で理念を唱和し、理念に基づいた支援、実践ができるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くを散歩する際、地域の方々とお話をしたり、作られている野菜や果物をいただいたりしている。地域の小学生の来訪があり、楽しみの一つとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に認知症の方の行動や、周辺症状などの報告をしている。参加していただいている包括支援の方からも支援の方法などの話をさせていただく場をもち、理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催し、利用者、家族、地域住民、駐在所のお巡りさん、包括職員に参加いただき、利用者の状況や行事の報告を行い、他施設で行っている行事や勉強会を教えて頂き、毎日のサービスに活かせるよう創意工夫している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当窓口月に月次報告している。市町村での取り組み、勉強会など教えて頂き、協力関係を築けるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施している。身体拘束の弊害、正しいケア方法を理解し、身体拘束をしないケアを目標に全職員が取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、言葉遣いや態度などにも気をつけ、虐待のないケアに取り組んでいる。また、虐待を見過ごすことがないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を行い、制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を一つ一つ説明し、不安や疑問が解決できるよう十分に時間を設け、理解、納得してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に意見や要望を伺うようにしている。玄関にも意見箱を設置している。出された意見、要望は運営に反映するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度相談するようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断や予防接種を実施し、健康面に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は各職員の資格習得の支援と力強い励ましをしてくれている。研修会参加にも力を入れてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との意見交換、相互訪問をして、意見交換をすることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく生活できるように、家での生活、困っていること、不安に思うことなどをゆっくりと傾聴し、要望の表現について話をすることにより、安心感をもって頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談に来られた時は、十分な時間を設け、不安なこと、困っていることを聞き、事業所が出来ることも説明し、理解してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって最も適したサービスが受けられるよう必要に応じて他のサービス利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯を畳んだり、散歩にでかけたり、職員と利用者ができることを一緒に行うことで共に支えながら暮らしていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話などで日頃の状況報告し、家族の希望を聞き、利用者の望む暮らしを家族とともに考え、支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に行きつけの美容院に出掛けたり、知人や友人の面会や電話で話ができるよう時間を作っている。関係が途切れないよう家族様にも協力してもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がみんな楽しく参加できるようなレクリエーションや行事を行い、職員、利用者同士が関われるよう取り組んでいる。利用者同士の関わりが困難な場合には、職員が間に入り孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談があった時は応じるなどの援助を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりと、ゆっくり関わる時間を設け、利用者の言葉や表情などから思いや意向を把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者や家族から情報を収集するよう努めている。入所後は、その都度本人や家族からこれまでの暮らしの情報を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや食事摂取量、排泄、睡眠状態を記録し、一人ひとりの心身状態や生活リズムが把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から利用者の思いを感じ取り、家族から意向を聞き取り、把握できるよう努めている。3ヶ月毎に見直しを行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や気づき、工夫などを業務日誌、介護記録、申し送りノートに記入し、ミーティングで共有し、ケアの向上に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じた食事形態を考え提供するなど、利用者や家族が希望することを臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域駐在さんや消防団など何かあれば見廻りをしてきている。近隣小学校との交流により楽しい時間を過ごせるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力で通院したり、利用者一人ひとりの希望に応じた受診体制を取り、利用者が安心して暮らすことが出来るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、体調管理し、異変を感じた時は素早く看護師に連絡し、指示を仰ぎ、状態により病院、家族に連絡するなどの対応をし、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には経緯を細かく報告し、情報交換を密に行い、早期退院できるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の段階で事業所の出来る最大のケアの範囲について説明している。事業所による支援が困難になった場合には、家族や医療機関などの関係者と連携を図り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時に備えている。消防署指導の元、救急訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の元、避難訓練を行っている。また、地元消防団や駐在さんの協力により、台風や大雨時の巡回や災害時の避難場所を確保しており、備蓄品も確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶、言葉遣い、接し方などの勉強会を行い、利用者の自尊心を傷つけることの無いよう、全職員が意識して言葉かけや行動に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと利用者に関わりを持ち、利用者の思いを感じ取れるよう努めている。利用者が自己決定出来るよう、さり気ない言葉掛けや行動に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールはなく、利用者の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔な衣類を着用し、汚れたら着替えることができるよう支援している。また、希望があれば本人の望む美容院でカットや毛染めが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひばり農園で収穫した新鮮な野菜で、食事を作り、季節感を感じてもらっている。利用者は一人ひとりの力量に応じて、下膳やテーブルふき、野菜の選別などを職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人にあった量に調整している。水分量の少ない方には好みのものを飲んでいただいたり、こまめに水分補給をしてもらっている。定期的に体重測定を実施し、体調管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや、誘導にて歯磨きを実施。利用者一人ひとりに合わせて全介助、一部介助、見守りで支援している。また必要時には歯科往診も依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がないよう、一人ひとりの排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。日中は出来る限り、紙パンツや布パンツで過ごして頂けるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分補給、運動などに配慮し、便秘予防に努めている。排泄表の記録により、排便状態を全職員が把握できている。お茶、水が飲めない方には水分補給ゼリーやスポーツドリンクなど口に合うものを飲んでいただいたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者が安心して入浴できるよう、その日の体調や気分に応じて、日を変えるなど対応している。湯船に浸かれない時は足浴やシャワー浴で身体に負担の掛からないような支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者はその日の体調により居室で休まれたりソファで寛いだりしている。夜間は部屋の温度調整や布団の調整、パジャマの調整をすることで気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに纏め、すぐに確認できるようにしている。症状が悪化するような時はすぐに主治医に連絡が取れる体制を整え、必ず申し送りして、全職員が把握できるようにしている。服薬時には必ず職員同士で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯たみ、新聞ゴミ入れ作りなど日常生活に取り入れている楽しみごととして、パズル、読書、カラオケなど利用者が好きなことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は庭のベンチに座り日光浴をしたり、近くを散歩したりしている。希望があれば家族と外出したり、外泊したりすることができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を出来る方がほとんどいないのが現状です。必要な金銭は施設で預かり、小遣い帳に記入している。使った小遣いは毎月家族に書面で報告し、また面会時に小遣い帳の確認をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には利用者と共に作ったちぎり絵や、季節に応じた空間づくりをしており、清潔、整理整頓、気持ち良く、心地よい空間を心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋で過ごす方、ソファで過ごす方、職員と話される方、テレビを見ている方、思い思いに過ごすことができるような支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人や家族に使い慣れたものを持ち込んでもらえるよう説明している。好みのものや写真など馴染みのあるものを居室に飾り、居心地良く暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所がわかるよう大きな文字で張り紙をしている。歩行器や手すりを利用する方の為に廊下や部屋に障害物を置かず、安全に生活できるよう努めている。		